

現代自由民主主義における諸問題

6月7日に、ジョージタウン大学のケビン・M・ドーク教授をお迎えて、道徳教育研究会を開催した。ドーク教授は、シカゴ大学でPh.Dを取得後、『日本ロマン派とナショナリズム』（柏書房）、『大声で歌え「君が代」を』（PHP）をはじめとする多くの著書で日本の思想・政治・文学にかんする卓越した考察を展開してきた。また、日本の戦没者慰霊にかんする論考も発表し、その見解は安倍晋三元首相の著書『美しい国へ』（文藝春秋）でも引用・紹介されている。「現代のリベラル・デモクラシーの諸問題」と題した今回の報告でドーク教授は、現代アメリカにおけるリベラル・デモクラシー批判の動向を概観するとともに、これからのリベラル・デモクラシーを構想するにあたって法哲学者・田中耕太郎の古典リベラリズムの所説が重要な意味を有していると述べた。また質疑応答では、現代アメリカにおいて、人権概念に依拠したリベラリズムと人格概念の涵養を説くキャラクターエデュケーションとの対立・相剋がどのような展開を見せているかという点について論議が行われた。

（文責：道徳教育推進プロジェクト）